

補聴器購入費助成申請、今年も「予算を上回る勢い」

12月議会で予算追加の見通し



9月議会はいま常任委員会審査が続いています。今号では、12日の厚生常任委員会審査の様子を中心にお知らせします。
厚生常任委員会の審査で一番気になってきたことの一つは昨年度から実施された補聴器購入費助成事業（正式名称は軽・中重度難聴者補聴器購入費助成事業）についてです。この事業は、私が2度にわたる一般質問を行い、実現した事業です。それだけに、どういう取組になったかよく知りたいと思っていました。

この問題は委員会審査の中で、日本共産党議員団の平良木哲也議員がとりあげました。
同議員は、「本当にありがたいお話で、たくさんの方が応募され助成を受けて、聞こえが良くなったというふうに聞いている」と感謝の言葉を述べた後、予算の組み立て方、執行状況などについて質問しました。
担当の丸田福祉課長は、「昨年の場合、当初予算に加えて、12月に補正をさせていただき、申請は217件になった。令和5年度の予算の見込みの立て方も非常に難しかった。実際いま、どうなのかというところ、勢いとしては、予算を上回るような勢いとなっております。12月議会には補正をお願いすることになると思う」とのべました。
昨年について追加の予算を組む必要があるという話は初めて聴きました。補聴器購入費の補助を受けたいという人たちにとっては朗報です。

一昨年の災害救助法下の除雪費支援の一部、国が認めない暴挙

もう一つ気になっていたのは一昨年度の大雪のときの災害救助法の適用問題です。より詳しく言うと、国からの除雪費支援について、国は写真のないものなど一部の支出を認めないという態度に出していました。その後、どうなったかを知りたかったのです。これも平良木議員がとりあげました。
同議員の「その後、市や県は国との間での折衝を行ってきたはずだが、どんなふうになっているか」との質問に、担当の牛木生活援護課長は、「要は災害救助法が適用になった際に該当になる部分とな



【ナツズイセン】ヒガンバナ科の多年草。漢字で、「夏水仙」と書きます。春に葉を出し、枯れた後にピンク色の花が咲きます。時期は8月の中旬から下旬にかけて。花はきれいですが、有毒植物です。花言葉は「深い思いやり」「あなたのためになんでもします」。写真は9月12日、柿崎区上下浜にて撮影しました。

らない部分が出てきていて、そうならない部分については、国の方で認めてもらえるようにということと、県と市と話をした。しかし、国の方で認めなかった。救助対象外となったのは102件だ。これらについては、今回は県の方で負担をさせていただくことになった」と答えました。
小林健康福祉部長も、「最終的にどうしても、災害救助法だと、住家の部分で生活支援がある部分しかできないということだ。私ども市の制度としては、車庫等に

も対象を広げているので、補充し合っていけばいいと思っています。ただ、写真がないだけで駄目だというようなケースは、今回県も頑張り、比較的近くの写真で代用するとか、そういった形をとってクリアする形になった。最大懸念していた部分については解決できたのかなと思っています。引き続き県と連携しながら国に要望を上げていきたい」と答えました。
一部解決ということですが、国との間で雪国の実際の苦しみを踏まえた議論がさらに必要です。

マリキータとその仲間たち



高田のまちかど交流館で開催された第8回「マリキータと仲間たちコンサート」に誘われ、参加してきました。
昨年も参加しているのですが、前回と同じく、ゲストは「勝手にがズレレ上越」のみなさんでした。今回も歌あり、演奏あり、踊りありで、ものすごく楽しいコンサートでした。この日は飛び入りで踊る人もいました。イラストはコーヒールンバを踊る人たちです。

はしづめ法一の活動レポート

No.2126 2023.9.17

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七七三回 カボチャとヨongo

昨年の秋以来ですから、十か月ぶりということになるでしょうか。八月下旬、上越市東部の山間部に住むキユさんの家を訪ねました。

居間の東側の戸も前庭の戸も閉まっていたので、留守かも知れないと思ったのですが、玄関の戸は開いていました。「いなたかいね」と声をかけ、様子を見ていたら、キユさんが少し腰を曲げて出てこられました。

キユさんは、私の顔を見るなり、「入ってってくんない」と言われました。「いやー、時間ないし、またにすることと断ったものの、「いいねかね」と何度も誘われ、迷いました。

家へ上げさせてもらえば、あつという間に二〇分や三〇分が経ってしまいます。申し訳ないと思いつながら、丁寧に断りました。じつは、この日、松之山へ行く予定があり、遅くなりたくなかったのです。

でも、すぐに「さよなら」でできる雰囲気ではありませんでした。私が居間に入る気配がないと判断したキユさんは、玄関の外まで出てきて、しゃべり始めました。「お母さん亡くなって、さみしくななつたらね」

キユさんはずっと私の母のことを気にしてくださっていました。お会いした時、「お母さん、元気でいなかかね」という声を聞かないことはありませんでした。

私は、さみしいかどうかには答えるのではなく、「九八歳でした。よく頑張ってくれたと思います」と言いました。すると、キユさんは、「おれはいま九四だすけ、まだおまんちのお母さんの歳まで四年ある」と言います。すかさず、「まだまだ若くていなるんだね」と応じました。

正直言うと、キユさんの年齢はもっと若いと思っていました。だから、驚いたのですが、見た目はまだ八十代後半に入っただ

かりくらいに見えていたのです。こういうやりとりを始めたなら、もういつものパターンです。話は簡単には終わります。

「おれなんて、家にばっかいる」

「そんでいいがどね。あついいし」

「その田んぼの畑にカボチャとヨongo、一本植えただけだ」

「そりゃ、大したもんだ」

「草だらけにしておいたがでも、ヨongoは八本あった。カボチャもいくつもなつたすけ、嫁さん、持って行った」

「すごいね。じゃ、おれも見たい」

話の成り行きで、カボチャとヨongoがとれたという畑まで行きました。

畑は納屋のすぐそばにありました。面積的には四畝くらいでしょうか。一人暮らしの人にとっては少し大きすぎる畑かも知れません。何よりも草刈りが大変ですから。

畑は、お盆前に息子さんが草刈りされたのでしよう、きれいになっていました。手前にヨongo、奥の方はカボチャが植わっていました。それだけではありません。ナスも七、八本植わっていましたし、地ばい瓜と思しきものもありました。

九四歳の人がカボチャとヨongoを植えたというだけでもすごいことだと思っていたのに、やはり、長年、畑仕事をしてきた人のやる仕事です、丁寧に管理されていることがわかり、大したもんだと思いました。

それに、最初の話にはまったく出てこなかったナスやキュウリなど、普段必要な野菜もちゃんと作ってあります。それらを目にして、改めて、「このお母さんは頑張り屋さんだな」と思いました。

私の母も畑仕事は大好きでしたが、九三歳のときにまったくなくなりました。そういう姿を見てきただけに、キユさんの姿はとても力強く見えました。この人は百歳を軽く超える人だと思いました。

くびき野カレッジで歴史写真などのトーク



第2土曜日、高田小町で開催されている「くびき野カレッジ天地ひと」で、写真で上越を語るイベントが行われました。

登場したのは、小池幹夫さん、藤野正二さん、松井隆夫さん、佐藤秀定さんの4人のトークでは、空撮した高田平野と米山、小熊写真館などの歴史、二本木駅のスイッチバックなどが話題に上がりました。とてもユニークで、面白い企画でした。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月6日(水)	9月13日(水)
上越南消防署	0.047	0.057
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.070	0.063
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.053	0.040
高士分遣所	0.057	0.047

上野實英さんが地域新聞、「寺子屋新報」発行

吉川区東田中地区にある福平・長坂農産物直売所のスタッフの方から、「上野先生、また便利出し始めになったよ」と連絡をいただき、寄ってきました。

上野實英さんは福平在住で、私の中学時代の恩師の一人です。「寺子屋新報」の今号には猛暑にまつわる話や先日開通した八幡橋の歴史も書いてあり、引き付けられました。



「寺子屋新報」は直売所にあります。ぜひ読んでみて下さい。